

答辞

厳しかった冬の寒さも和らぎ、暖かな春の訪れを感じるこのよき日に、私たち卒業生のために、このような素晴らしい卒業式を挙行して頂き、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中、ご出席くださいましたご来賓の皆様、保護者の皆様、そして残念ながら参加が叶わなかった在校生の皆さんに、卒業生を代表し、心より厚く御礼申し上げます。

さて、希望と不安を抱き、ここ松本蟻ヶ崎高校に入学してからの三年間は、本当にあつという間でした。コロナ禍と、ほぼ同時に始まった高校生活であり、これまでの常識、私たちの思い描くスクールライフとは、かけ離れた三年間ではありましたが、その中にあつても、何とか開催されたクラスマッチやぎんが祭、合唱コンクールなど、クラスや部員達と団結して行うイベントや行事は、特に印象に残っています。もちろん、三年間で苦しい事や嫌なこともありました。特に、現在も渦中にあるコロナウイルスの影響は大きく、未知のウイルスへの脅威の中、一年次は約半年しか登校できず、苦しい思いをしました。合唱コンクールや部活動など、中止になってしまった行事も多く、何度も悔しい思いをしました。そのような中でも、私たちは研修旅行にも行くことができ、ぎんが祭では、制限付きではありましたが約三年ぶりに、外部の方々をご招待し、本来に近い形で開催することができました。またクラスマッチや合唱コンクールなど、失われつつあった行事を、新たな形で行い、楽しむことができました。私たちと共に考え、共に取り組み、様々ご尽力頂きました先生方、また、学校生活を支えて下さった多くの方々には、感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

私は、一年間生徒会長として、様々な生徒会の運営に携わりました。特に第74回ぎんが祭は、皆さんの記憶にも新しいと思います。厳しい状況の中で、多くの人と悩み、ぎんが祭の企画運営に携わらせて頂きました。本当に全校が盛り上がることができるのか、四日間うまく運営することができるのか、といった不安もありました。しかし当日は、私の不安など吹き飛ばすような全校の盛り上がりや、一体感に圧倒され、改めてぎんが祭の持つパワーと、蟻高生の暖かさ、周囲の人の大切さを実感

しました。私は本当に、周囲の皆さんの助けによって活動できていたんだなと気づきました。そんなかけがえのない皆さんと出会い、過ごし、この先も忘れる事はないであろう思い出を作った、この蟻ヶ崎高校での生活が終わってしまう事が、まだ実感することができません。また月曜日から、いつものように登校し、ホームルームに参加し、授業を受けるといったこれまでの日常が、変わらず続いていくような気がしてなりません。しかし残念ながら、本当に今日、私達のここ蟻高での三年間は終わりを告げます。

私達が、高校生活を充実させ、無事に卒業できるのは、沢山の方々の支えがあったからです。校長先生を始めとする先生方、ご来賓の皆様、地域の方々は、私達を温かくサポートし、導いて下さいました。友人、先輩、後輩とは、多くの思い出を作ることができました。改めて感謝申し上げます。そして何より、家族は、私達の事を第一に考え、常に味方であり、心配しながらも応援してくれました。心の支えであり、かけがえのない大切な存在です。普段は照れ臭くてなかなか言えませんが、まさに今日は、直接伝えるべき大切な日です。各自がこの後、直接お伝えすることと思いますが、それに先立ち、卒業生を代表して、全員の思いを、ここにおられる保護者の皆様にお伝え致します。「18年間、私達を支えて頂き、本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしく申し上げます。」

最後に私から卒業生の皆さんへ。皆さんと過ごした時間は本当に楽しく、本当にあっという間に過ぎて行きました。皆さんのおかげで、かけがえのない思い出を手に入れ、幸せで、貴重な経験を得ることができました。一緒に食事をしたり、遊びに行ったり、受験勉強を頑張ったりと、どれも一生忘れる事のない思い出であり、私の支えとなっています。皆さんは、高校生活三年間を振り返って、一番の思い出を問われたら、何を思い浮かべますか。皆さんが思い浮かべる、どの思い出も、きっと皆さんにとっても大きな支えになると思います。「墨縁」これは、皆さんご存知の通り、昨年見事全国大会3連覇を果たした、誇り高き我が校書道部の作品に描かれた言葉です。書を通じた縁、人と人との繋がり大切さを表していました。同様に、私達は、この学び舎で結ばれた「蟻高縁」

で繋がっています。この縁は、決して何物にも消される事のない、太く、そして強固なものです。これから先、まだまだ辛いことも沢山あるはずですが、多くの苦悩を強い仲間と乗り越え、経験してきた私達であれば、そしてこの縁があれば、きっと挫けることなく、前に進めると思います。皆さんと出会い、今日という日を迎えられるて良かったと、心から思います。本当にありがとうございます。

本日、私達卒業生は、高校生活のゴールテープを切ると同時に、新たなスタートラインに立ち、それぞれが抱く夢と共に、輝く未来へと、一歩を踏み出します。私達は、この三年間で得たものを活かして、胸を張って、これからの人生を歩み、精進していくことを誓います。先生方、保護者の皆様には、これからも私達を、どうか温かく見守って頂きたいです。

最後になりますが、本日ご臨席を頂きました皆様、また、私達の学校生活に関わって下さった全ての皆様のご健勝と、松本蟻ヶ崎高校の益々のご発展を、心よりご祈念申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和5年3月3日

卒業生代表 寺沢 颯駿